

グローバル・リーダーの育成

菅原秀幸ゼミ

経営学部教授
菅原 秀幸



学生の背中を押し、世界に飛び出させる。これが私の役割です。ここに向かって、私の演習と講義は組み立てられています。その目的は、「グローバル・リーダーの育成」です。



経営学部2年 菅原 秀幸
経営学部3年 高橋 瑞樹

菅原秀幸ゼミは、グローバル・リーダーの育成をテーマにしています。初回のゼミで、菅原教授は「就職するより、世界を旅したほうが良い」とおっしゃり、衝撃を受けました。就職して安定した生活を求める若者が多い中、こんなことをいう人がいるんだと、度肝を抜かれたのです。

グローバル・リーダーをめざす

グローバル・リーダーの育成が目的です。ゼミでは「自分たちの行動、態度、考えが、世界に通じるか」と常に問われます。「一流の人にな



ショー・ビューベル先生の前で1人ずつ英語でプレゼン

るには一流を知れ、「本物の真似をして」と、いつしか自分も本物になれる」とも教えられます。

このゼミに参加して3か月あまりですが、英語に対する意識や、勉強や講義に対する姿勢が変わったと、はっきりと実感しています。このゼミを通して、自分を徹底的に鍛えてグローバル・リーダーになるべく世界に挑みます。

先生がいろいろ話してくる中で、心を打たれた言葉があります。「このゼミの課題をやってくるか、こないか。ゼミの場をどう活用するか。それは各自の自由だよ。この意味は、「自分がやる事は、すべて自分で調べて考える。ゼミには、自分を成長させる機会がたくさん設けられているのだ」と私は受け止めるこ

とができました。大学1年生の後期までは、自分の関心のある科目を受講することが楽しかったです。しかし、いまは単に関心があるだけでなく、自分の成長に繋がる講義を受けたいと思うようになってきました。以前から、つじつまが合わない前から、つじつまが合わない

自分がしかならない体験を積み重ねることは一生の宝になることを教わりました。これで失敗は、何も怖くなくなりませんでした。

前期の終わりに、英語によるプレゼンテーションを、一人ずつが、カナダ人の先生の前でします。それは撮影されて、生涯、YouTubeにアップされ続けます。

後期からは、すべて英語でプレゼンする予定です。世界で通用するために、「非常識を常識に。常識を非常識に。量が多ければ、質が最も良いもの。人とは同じである」と。これらをゼミ生は常に意識しています。

「教えない授業」(1)「脳みそに汗をかく授業」(2)「具体的な一歩を踏み出す授業」です。「えっ、なんじゃそりや?」ですよ。

「教えない授業」(2)「脳みそに汗をかく授業」(3)「具体的な一歩を踏み出す授業」です。「えっ、なんじゃそりや?」ですよ。

「教えない授業」(2)「脳みそに汗をかく授業」(3)「具体的な一歩を踏み出す授業」です。「えっ、なんじゃそりや?」ですよ。

「教えない授業」(2)「脳みそに汗をかく授業」(3)「具体的な一歩を踏み出す授業」です。「えっ、なんじゃそりや?」ですよ。

「教えない授業」(2)「脳みそに汗をかく授業」(3)「具体的な一歩を踏み出す授業」です。「えっ、なんじゃそりや?」ですよ。

「教えない授業」(2)「脳みそに汗をかく授業」(3)「具体的な一歩を踏み出す授業」です。「えっ、なんじゃそりや?」ですよ。

「教えない授業」(2)「脳みそに汗をかく授業」(3)「具体的な一歩を踏み出す授業」です。「えっ、なんじゃそりや?」ですよ。

「教えない授業」(2)「脳みそに汗をかく授業」(3)「具体的な一歩を踏み出す授業」です。「えっ、なんじゃそりや?」ですよ。

「教えない授業」(2)「脳みそに汗をかく授業」(3)「具体的な一歩を踏み出す授業」です。「えっ、なんじゃそりや?」ですよ。

たことは、決して北海学園大生も、資質の点では劣っていないという点。しかし世界で通じるように磨かれていないと痛感。例えば、インパクト・プレゼンテーションができない(自分の意見を、人を引き付けるように言えない)。インパクト・ライティングができない(論理的で説得的な文章が書けない)。戦略的情報発信ができない(I

一方通行型の講義を聴き続けると、誰でも眠くなりま

「挑戦する力」、「失敗する力」、「人と違う力」の3つを学生につけてもらうことを狙っています。違っていいからと、価値がある。Think different(人と違う

明する。優れた教師は、自分でやってみせる。偉大な教師は、やってみようという気にさせる。身の程知らずなことに、自分は偉大な教師になろうと誓ったのです。そこで考え出したのが、「コーチング志向型IT活用講義」です。

「挑戦する力」、「失敗する力」、「人と違う力」の3つを学生につけてもらうことを狙っています。違っていいからと、価値がある。Think different(人と違う

「挑戦する力」、「失敗する力」、「人と違う力」の3つを学生につけてもらうことを狙っています。違っていいからと、価値がある。Think different(人と違う

「挑戦する力」、「失敗する力」、「人と違う力」の3つを学生につけてもらうことを狙っています。違っていいからと、価値がある。Think different(人と違う

「挑戦する力」、「失敗する力」、「人と違う力」の3つを学生につけてもらうことを狙っています。違っていいからと、価値がある。Think different(人と違う

「挑戦する力」、「失敗する力」、「人と違う力」の3つを学生につけてもらうことを狙っています。違っていいからと、価値がある。Think different(人と違う

世界に出よう。世界は可能性に満ち満ちている

「教えない授業」として、学生同士も、お互いに他の学生が考えていることが分かります。

「教えない授業」として、学生同士も、お互いに他の学生が考えていることが分かります。

「教えない授業」として、学生同士も、お互いに他の学生が考えていることが分かります。

「教えない授業」として、学生同士も、お互いに他の学生が考えていることが分かります。

「教えない授業」として、学生同士も、お互いに他の学生が考えていることが分かります。

「教えない授業」として、学生同士も、お互いに他の学生が考えていることが分かります。

「教えない授業」として、学生同士も、お互いに他の学生が考えていることが分かります。

「教えない授業」として、学生同士も、お互いに他の学生が考えていることが分かります。

「教えない授業」として、学生同士も、お互いに他の学生が考えていることが分かります。



菅原秀幸ゼミのメンバー。カナダ人のショー・ビューベル先生を囲んで

学生活動 Vol.6

菅原秀幸ゼミは、「脳みそに汗をかく」演習を通して、「世界に通用する人材」の育成を目指している。ゼミ生は、皆が皆、言わずと知れた個性派揃い。そんな我々に「Make a difference」の精神のもと、世界で通用する思考、姿勢、行動を身につけさせ

他の学生とは違った一際輝く存在へと磨きかける。日本だけという狭い視野で、物事を考えてはいけない。常に世界に目を向け、実力主義で

勝ち抜く姿勢を持ち続ける。ゼミ生とゼミ生の間。ゼミ生とゼミ生の間。ゼミ生とゼミ生の間。

でも活用される。お互いの質疑応答により、関きや気づきを促す。学生の自主性を高め、学びに対する姿勢を、受動的から能動的に変換させるのだ。



経営学部2年 菅原 秀幸

私が、菅原秀幸ゼミを選んだ理由は、単に「面白そうだから」でした。なぜなら、ゼミをどこにしようかと考えていた時、このゼミの紹介文だけが、他のゼミと違って



教授とゼミ生、ゼミ生とゼミ生の間で活発な質疑応答

ゼンがあります。各自、家にあるものを一つ持ち寄り、その中からランダムに1つが選ばれます。その場で、それについて、自分の知識をフル活用して、いきなりプレゼン



経営学部2年 菅原 秀幸

菅原秀幸ゼミのキーワードは、「グローバル」。そして「Make a difference」です。「人と違う」とは何かを学び、自身のプレゼンに活かします。

ゼミの目標として、プレゼンテーション力の強化、ICT活用の促進に力を入れています。プレゼンテーション

ゼミを通して最も学んだことは、「待つてないで、自分から一歩踏み出す」ということです。今までの自分にはなかった外向き志向や主体性が身につけてきました。人生もゼミ生同士も互いに刺激し合い、世界に通用する人